

- 問1 16世紀末から19世紀後半にかけての日本の歴史において、江戸時代に上方を中心に栄えた町人文化の説明として最も適切なものはどれですか。(2017年 北海道公立入試 類似)
1. 近松門左衛門が、三味線の音色に合わせて演じられる人形浄瑠璃の脚本を手がけた。
 2. 紫式部が、宮中の貴族の生活や心情を描写した源氏物語を著した。
 3. 兼好法師が、日々の生活で感じたことを記した随筆である徒然草を執筆した。
 4. 国ごとの産物や地形、伝承などをまとめた風土記が編集された。
- 問2 江戸時代後期、幕府の権威を回復するために行われた「天保の改革」を主導した老中は誰ですか。(2022年 大阪公立入試 類似)
1. 水野忠邦
 2. 松平定信
 3. 田沼意次
 4. 井伊直弼
- 問3 江戸時代後期に発達した工場制手工業（マニュファクチュア）の特徴について、それ以前に主流であった「問屋制家内工業」と比較した説明として最も適切なものはどれですか。(2018年 岐阜公立入試 類似)
1. 資本家が工場などの施設を建て、雇った労働者を一箇所に集めて組織的に生産を行った。
 2. 商人が農家に原料や道具を貸し出し、農民が自分の家で農作業の合間に製品を作った。
 3. 蒸気機関などの大型機械を導入し、人の手に頼らない自動的な大量生産を実現した。
 4. 村全体で生産を管理し、出来上がった製品を幕府や藩がすべて買い取る制度であった。
- 問4 江戸幕府がキリスト教の禁教と対外貿易の統制を強化していく過程において、1637年に発生した島原・天草一揆は大きな転換点となりました。この一揆の鎮圧から2年後、キリスト教の布教を防ぐ目的で幕府が行った措置として、最も適切なものはどれか答えなさい。(2024年 熊本県公立入試 類似)
1. ポルトガル船の来航を禁止し、鎖国の体制をほぼ完成させた
 2. フランシスコ・ザビエルを追放し、キリスト教を初めて禁止した
 3. アメリカのペリーによる開国要求を受け入れ、日米和親条約を結んだ
 4. 朱印船貿易を奨励し、東南アジア各地に日本町を形成させた
- 問5 16世紀半ばから17世紀半ばにかけての日本の対外関係における出来事のうち、時期の古いものから順に正しく並んでいるものはどれですか。(2024年 三重公立入試 類似)
1. 種子島への鉄砲伝来 → 天正遣欧少年使節の派遣 → 朱印船貿易の開始 → オランダ商館の出島移転
 2. 天正遣欧少年使節の派遣 → 種子島への鉄砲伝来 → 朱印船貿易の開始 → オランダ商館の出島移転
 3. 種子島への鉄砲伝来 → 朱印船貿易の開始 → 天正遣欧少年使節の派遣 → オランダ商館の出島移転
 4. 朱印船貿易の開始 → 種子島への鉄砲伝来 → 天正遣欧少年使節の派遣 → オランダ商館の出島移転
- 問6 江戸時代の日本と朝鮮の関係について、貿易や拠点のあり方を説明した文として正しいものはどれですか。(2016年 茨城県公立入試 類似)
1. 朝鮮の釜山に倭館と呼ばれる施設が置かれ、対馬藩が窓口となって貿易が行われた。
 2. 長崎の出島に朝鮮の商人が来航し、オランダや清（中国）と同様に幕府が直接管理する貿易が行われた。
 3. 対馬に朝鮮館と呼ばれる施設が置かれ、そこを拠点に朝鮮の商人と日本の商人が自由に取引を行った。
 4. 薩摩藩が朝鮮を服属させ、那覇に置かれた施設を通じて日本への朝貢貿易を強いた。
- 問7 江戸時代中期、儒教や仏教といった外来の教えが普及する前の、日本古来の精神や文化を明らかにしようとする「国学」という学問が盛んになりました。この国学を大成させ、30年以上の歳月をかけて日本最古の歴史書を注釈した『古事記伝』を著した人物は誰ですか。(2024年 長野県公立入試 類似)
1. 本居宣長
 2. 松尾芭蕉
 3. 契沖
 4. 塙保己一
- 問8 江戸時代の田沼意次による政治改革において、商工業者の組織である「株仲間」を奨励・公認した主な目的として最も適切な説明を次の中から選びなさい。(2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 商人に独占的な営業権を与えて保護する代わりに、彼らから税を徴収して幕府の財政収入を増やすため。
 2. 農村から都市へ流入した人口を元の農村へ戻し、農業生産を回復させて年貢収入を安定させるため。
 3. 物価の高騰を抑えるために、商人の独占による流通の滞りを解消し、自由な商売を促進させるため。
 4. 外国との貿易を制限し、金や銀が海外へ流出するのを防ぐために、特定の商人だけに貿易を許可するため。
- 問9 伊能忠敬が岩手県の沿岸部を含む日本全国で行った、地図作成のための活動内容として最も適切なものはどれですか。当時の記録資料や各地に残る記念碑から読み取れる状況に基づいて選びなさい。(2020年 愛知公立入試 類似)
1. 各地の藩が作成した古地図を幕府の資料室でつなぎ合わせた。
 2. 実際に現地を歩き、測量器具を用いて距離や方位を細かく測定した。
 3. 富士山などの高い山に登り、遠くに見える海岸線の形を写生した。
 4. オランダから輸入された世界地図を日本語に翻訳・模写した。
- 問10 1792年にロシアのラクスマンが根室へ来航し通商を求めて以降、日本近海にはイギリスやアメリカなどの外国船が頻りに現れるようになりました。これに対し、1825年に江戸幕府が発令した、中国（清）やオランダ以外の外国船が日本の沿岸に近づいた際、ためらわずに砲撃して追い払うことを命じた法令を選びなさい。(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 異国船打払令
 2. 薪水給与令
 3. 生類憐みの令
 4. 武家諸法度
- 問11 享保の改革において、幕府の財政難を解決するために行われた政策の背景と内容についての説明として、最も適切なものはどれですか。(2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 生類を憐れむ法令を出し、仏教の教えに基づいた慈悲深い政治を目指した。
 2. 年貢の徴収方法を、その年の作物に関わらず一定の額を納めさせる「定免法」に改め、収入の安定を図った。
 3. 物価高騰の原因は商人の独占にあると考え、それまで認められていた株仲間を解散させた。
 4. 参勤交代の制度を廃止することで、大名の財政負担を軽減し、幕府への忠誠を高めようとした。
- 問12 江戸時代の民衆支配に関する説明として、制度の目的と内容が正しく組み合わせられているものはどれですか。(2025年 岐阜公立入試 類似)
1. 農民同士に連帯責任を負わせる五人組を組織し、年貢の確実な徴収やキリシタンの摘発、犯罪の防止を図った。
 2. 武家諸法度を制定することで、農民が武器を持つことを禁じ、一揆を未然に防ぐとともに身分を固定した。
 3. 御成敗式目を作成し、農民の土地所有権を明確に認めることで、農業生産力の向上と村の自治を促した。
 4. 朱印船貿易を奨励することで、有力な農民に海外との取引を認め、幕府の財政を潤そうとした。
- 問13 江戸時代初期、徳川家康は西国大名や商人らに海外渡航を許可する「朱印状」という証書を与え、東南アジア諸国との貿易を積極的に行わせました。このように、幕府公認の許可証を携えた船によって行われた貿易を何といいますか。(2019年 高知公立入試 類似)
1. 朱印船貿易
 2. 勘合貿易
 3. 南蛮貿易
 4. 日宋貿易

答え合わせ・解説

問1	答え 1 近松門左衛門が、三味線の音色に合わせて演じられる人形浄瑠璃の脚本を手がけた。	江戸時代の元禄文化期には、大坂や京都といった上方を中心に、経済力をつけた町人を担い手とする文化が発達しました。近松門左衛門は、義理や人情、実際に起きた心中事件などを題材に人形浄瑠璃の脚本を書き、人気を博しました。他の選択肢の源氏物語は平安時代、徒然草は鎌倉時代、風土記は奈良時代の文化であり、時代が異なります。
問2	答え 1 水野忠邦	1841年から始まった天保の改革では、幕府の支配力を強めるために質素儉約の強制や、物価抑制を目的とした株仲間の解散など、厳格な統制政治が行われました。松平定信は寛政の改革、田沼意次は商業を重視した政治、井伊直弼は幕末の大老として知られています。
問3	答え 1 資本家が工場などの施設を建て、雇った労働者を一箇所に集めて組織的に生産を行った。	問屋制家内工業は農民が自宅で副業として行う形態でしたが、工場制手工業は資本家が管理する場所に労働者を「雇う」形へと変化した点が重要です。一箇所に集まることで、各工程の作業員が連携して働く分業体制が容易になりました。なお、機械を導入して大量生産を行うのは明治時代以降の「工場制機械工業」です。
問4	答え 1 ポルトガル船の来航を禁止し、鎖国の体制をほぼ完成させた	島原・天草一揆によりキリスト教徒の結束力に脅威を感じた江戸幕府は、禁教を徹底するため、1639年にポルトガル船の来航を禁止しました。これにより、貿易相手をオランダと中国（清）に限定し、窓口を長崎の出島などに絞る「鎖国」の体制が確立されました。選択肢にあるザビエルは戦国時代の人物、ペリーは幕末の人物であり、時代背景が異なります。
問5	答え 1 種子島への鉄砲伝来 → 天正遣欧少年使節の派遣 → 朱印船貿易の開始 → オランダ商館の出島移転	1543年の種子島への鉄砲伝来により、戦国時代の戦術が大きく変化しました。その後、安土桃山時代の1582年に九州のキリシタン大名によって天正遣欧少年使節がローマへ派遣されました。江戸時代に入ると、徳川家康が朱印状を発行して海外渡航を認める朱印船貿易が盛んになりましたが、幕府は次第に統制を強め、1641年には平戸にあったオランダ商館を長崎の出島に移転させて「鎖国」の体制を完成させました。
問6	答え 1 朝鮮の釜山に倭館と呼ばれる施設が置かれ、対馬藩が窓口となって貿易が行われた。	江戸幕府は「四つの口」と呼ばれる窓口を通じて限定的な外交・貿易を行いました。対朝鮮外交においては対馬藩がその役割を担い、朝鮮側の拠点である釜山には「倭館」という日本人の居住地を兼ねた貿易拠点が設置されました。出島はオランダや清との貿易拠点であり、薩摩藩が関与したのは琉球王国、松前藩が関与したのはアイヌとの交易であるため、これらと区別して理解する必要があります。
問7	答え 1 本居宣長	江戸時代には、中国伝来の儒教やインド伝来の仏教などが日本人に与えた影響を排し、日本独自の思想を探究する「国学」が発展しました。本居宣長は伊勢国（三重県）の医師でありながら、文献学的手法を用いて『古事記』を研究し、日本固有の「道」を明らかにしようとした。これが幕末の尊王攘夷運動などの思想的背景にもつながっていきます。
問8	答え 1 商人に独占的な営業権を与えて保護する代わりに、彼らから税を徴収して幕府の財政収入を増やすため。	田沼意次は、重商主義的な政策をとり、商業の活性化を通じて幕府の収入を増やそうと考えました。具体的には、それまで幕府が警戒していた商人の独占組織である株仲間を積極的に認め、その特権を保障する代わりに、運上金・冥加金という形で現金を納めさせました。これは、後に天保の改革において、物価上昇の原因が株仲間の独占にあるとして解散を命じた水野忠邦の政策とは対照的なアプローチです。
問9	答え 2 実際に現地を歩き、測量器具を用いて距離や方位を細かく測定した。	伊能忠敬の地図作成の最大の特徴は、実際に自分の足で歩いて測る「実測」にあります。歩数による距離の計測や、磁石などを用いた方位の測定、さらに天体観測による緯度の修正を組み合わせることで、当時としては画期的な正確さを実現しました。岩手県沿岸部にも測量隊が訪れたことを示す碑が今も大切に保管されています。
問10	答え 1 異国船打払令	18世紀末から19世紀にかけて、ロシア、イギリス、アメリカといった国の船が日本近海に姿を現す機会が増えました。江戸幕府はこれらに対し、鎖国体制を維持し国防を強化するため、1825年に異国船打払令（無二念打払令）を出しました。これにより、許可された中国（清）やオランダ以外の船は、発見次第追い払うという強硬な姿勢をとることになりました。
問11	答え 2 1 年貢の徴収方法を、その年の作柄に関わらず一定の額を納めさせる「定免法」に改め、収入の安定を図った。	徳川吉宗は、豊凶によって幕府の収入が変動するのを防ぐため、豊作・不作に関係なく一定の年貢率を維持する「定免法」を導入しました。また、大名から米を献上させる代わりに江戸滞在期間を短縮する「上米の制」なども実施し、幕府財政の立て直しを最優先課題としました。
問12	答え 1 2 農民同士に連帯責任を負わせる五人組を組織し、年貢の確実な徴収やキリシタンの摘発、犯罪の防止を図った。	五人組は、農民を数軒ごとにグループ化し、年貢の納入や防犯について連帯責任を負わせる制度です。この目的は、単に罰を与えるのではなく、住民同士に相互監視をさせることで、幕府にとって最も重要な収入源である年貢を確実に徴収し、キリスト教の禁止などの禁制を徹底させることにありました。選択肢にある「武家諸法度」は大名を対象とした法律であり、農民から武器を取り上げたのは豊臣秀吉の「刀狩」などの政策です。
問13	答え 1 3 朱印船貿易	徳川家康は幕府の財政を安定させるため、海外渡航許可証である「朱印状」を発行して貿易を奨励しました。これにより、東南アジア各地には日本人が居住する「日本町」が形成されるほど交流が活発になりました。室町時代の勘合貿易や、戦国時代から続く南蛮貿易と混同しないよう注意が必要です。